第1回
令和3年3月20日

鎌倉市本庁舎等整備

市民対話 ワークショップ レポート

開催概要
Outline

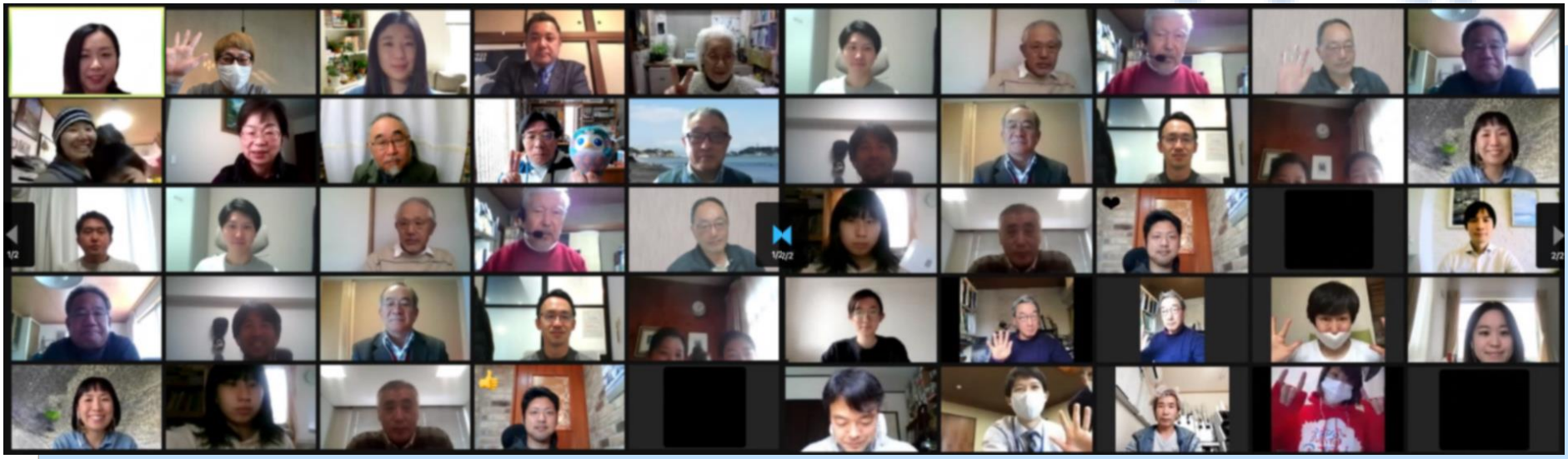
鎌倉市本庁舎等整備 市民対話 ワークショップ 第1回

◆開 催 日 ：令和３年（2021年）3月20日（土）

◆開催形式：オンライン

◆参加人数：32名

◆概　　要：グループにわかれ、新たな本庁舎と、鎌倉市役所現在地の２つのテーマに関して対話を実施しました



対話終了後のフォトセッションの様子

対話テーマ
Theme 1

2030年、あなたにとって**新たな本庁舎の役割**はどういうものでしょうか

（どんな役割であってほしいでしょうか）

市民に寄り添う庁舎

- 市民活動をサポートするという役割
- まずは市民の命と暮らしを守るのが自治体の役割
- コロナでオンライン化が進めば、多くの人は市役所の本庁に出かける必要がなくなるのでは
- 役所には事務手続きでしか訪問しない。オンラインサービスの充実があれば便利で、ほぼ訪問する機会はなくなると思う
- デジタル化を推進しながらも、対応できない市民も安心して行政サービスを受けられることをサポートする役割
- 基本的には行政手続等はデジタル・オンラインで完結する方向を望んでいる。職員にとって満足度の高い職場環境を提供することで市民へのサービス向上にもつながる
- 職員の働きやすさと生産性の向上が市民に対するサービスの向上につながると思う
- 市民のコミュニケーションハブになる場所。カフェや広場、託児所などが併設されていて、手続きの用事がなくてもその場を訪れたくなる場所
- より「人でなければならない、対面の価値」を活かすような方向が望ましい
- 災害時にも頼りになる庁舎
- 防災面では、消防、警察、自衛隊他、人員や車両、ヘリコプターなどが集まれる拠点でもあってほしい

深沢地域とのつながり

- 様々な世代が集える地域となり、そこに市役所があるという存在であってほしい
- 深沢地区に本庁舎があるかどうかより、伴って整備されるであろう生活と直結する施設ができるかどうかがポイント
- 公園みたいに緑豊かな空間

庁舎における交流

- 市民同士がつながるきっかけをつくる役割
- 市民の交流拠点となる庁舎。賑わいのある庁舎
- みんが気軽に集まる場所があって欲しい
- イベントを通してみんなが繋がれる
- 市職員と市民、あるいは市長や議会と市民の交流が大切
- 学校との連携を行えると良いのではないか。幅広い年代が交流できる場を設けられると良い
- 中学生や高校生、大学生などが力を発揮する場やイベントがあることで交流が広がる

対話テーマ Theme 2

2030年、あなたにとって**鎌倉市役所現在地**は どんな場所であってほしいですか

鎌倉の暮らし

- 鎌倉駅周辺の市民がこれまでと変わらず、もしくはこれまで以上のサービスを受けられる場所
- 旧鎌倉の方々が不便にならないようにする
- 最低限必要の行政手続き・サービス等はキオスク端末（※）などで対応。対面が必要な場合はコンシェルジュ的な方、あるいは専門家とのビデオ対話が可能 （※）公共施設等に設置される情報端末
- 交流が重要な要素となっていく
- 仕事でも遊びでもふらりと行って一日過ごせる。交流の生まれる空間
- 気軽に立ち寄れ、そこで世代問わずに色々なことが体験でき、交流が生まれる場所であってほしい
- いろいろな世代の人達、市外から来る人達と市民との交流の空間
- いまは気軽に休めるような場所がなく、気軽に立ち寄って、そこで新たな目的が見つけられるような仕掛けがあると良い
- 散歩しに行きたくなるような場所（気軽に立ち寄れる楽しい空間）
- いろいろな世代の市民が自由に過ごせるスペースであってほしい
- 市のいわゆる一等地なので、市民が繋がれて、かつ地域で経済も回るような場所
- 広い敷地を活かしたイベントスペース
- 鎌倉駅を境に観光客が少ないため、地域の方のために特化した設備があると嬉しい。例えば図書館の拡充など
- 鎌倉に住んでいる人が楽しめる場所であることで、観光の人も居心地のいい場所となる

鎌倉の仕事と学び

- ミーティングなどの集まれる場所が少ないのでみんなが使えるスペースとして再生して欲しい
- みんなの学び合いの様子が、どんなことをしてるのかが見えたり感じられるような、生涯学習が行われているとよい
- 鎌倉市内には子どもが集う場所がない。将来を担う世代が、学校以外の場所で出会い、交流できる場が必要
- 子育ての支援ができるような場を作って、子供を育てながらでも働きやすいまちづくり
- 図書館の充実

鎌倉の歴史・文化とブランド

- 子どもたちや新しく移住してきた人たちが鎌倉の歴史と文化を知れる場所
- 鎌倉の市民・歴史との繋がりを感じられる場所であってほしい
- 鎌倉の多様な自然、文化、芸術などを知り、いろいろな地域に足を延ばしたくなるような情報拠点化
- 鎌倉の歴史・文化とブランドの象徴であってほしい
- 「道の駅」的なポジション